

かごしまの 農業を担う

～新規就農・就業者支援～

鹿児島県の基幹産業である農業。

県では、鹿児島の農業の将来にわたる発展を支えるため、関係機関・団体と協力し、担い手となる農業者の確保と育成に取り組んでいます。本県で新たに農業を始めた人は平成13年度から8年連続で300人を超えています。

あなたも鹿児島で農業を始めてみませんか。

今回の特集では、新規就農・就業者支援の取り組みについて紹介します。

「担い手」を育てます

県立農業大学校

農業大学校には、養成部門、研究部門、一般の県民を対象とした研修部門があり、次代の農業、農村を担う高度な知識や技術を備えた農業者の育成に取り組んでいる。

農業の専門的知識と実践を2年間学ぶ養成部門は、農学部（野菜科、花き科、茶業科、果樹科）、畜産学部（肉用牛科、酪農科、養豚科）の2学部7学科。全寮制で、敷地内にある農場へいつでも行くことができ、学生たちは生産から販売まで実際に体験しながら、一からじっくり学ぶことができる。

また、養成部門卒業後は、より高度な経営管理能力や農業技術を身につける2年課程の研究部門に進学することもできる。

現在、養成部門では約2000人の学生がそれぞれの目標に向かって真剣に取り組んでいる。卒業後の進路は約6割が就農、そのほか農業団体や農業関連企業への就職など、約9割が農業に直接関わる道へ進んでいる。

「専門的な知識を少しでも多く蓄えて、現場で実際に使えるようになりたいです」と話すのは、農学部茶業科の2年生 内門 諒太さん（20歳）。実家の茶業農家の後継者になりたいと、普通高校を卒業後、茶業を専門的に学べ



「安定した値段で取り引きされる、品質の良いお茶を作りたいです」と内門さん。

る農業大学校に入学した。「ここでは病害虫の防除や堆肥のやり方など栽培管理から、製品化までのすべての行程を実際に体験し、学ぶことができます。自分たちの手で一から育てた茶の葉から荒茶ができたときは、達成感がありました」。

来年はさらに深い知識、技術を身につけるため、研究部門に進学予定の内門さん。「こういうお茶はあの人にしかできないと言われるような、個性のあるお茶を作りたい」と抱負を語ってくれた。

また、農業大学校では、一般の就農希望者を対象に、働きながら農業についての知識や技術を学ぶことのできる「かごしま営農塾」も実施している。

設備の整った農業大学校で、あなたも農業を学んでみませんか。

ピーマンの苗の管理をする1年生。ひとり1棟のハウスを担当し、生産技術を学ぶ。



鹿児島県立農業大学校

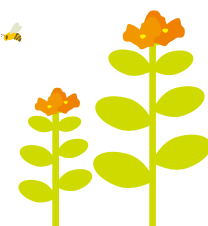
日置市吹上町和田1800 ☎099-245-1071

ホームページ <http://www2.kiad.pref.kagoshima.jp/nodai/>





しばさき きよし
柴崎 喜好会長
「社員と力を合わせて、自分たちのイメージに合う植物ができたときは嬉しいですね」。



わたしたちが 支えます



まずは相談してください

社団法人 鹿児島県農業・農村振興協会

鹿児島県農業・農村振興協会では、専属の就業アドバイザー、就業アドバイザーが、鹿児島県で農業を始めたい、農業を職業にしたいと考えている方の相談に応じ、各種支援制度や市町村の受け入れ状況、求人のある農業法人などの情報を提供している。

「相談者の年齢は20代〜50代まで幅広く、さまざまな境遇の方が県内外から相談にみえます。農業は全くはじめての方が多いため、専門用語はなるべく使わず、わかりやすい言葉で、農業の現状をできるだけ正確に伝えることを心掛けています」と、就業アドバイザーの岩倉勉さん。今年4月から半年で約200件の相談を受けている。

「相談者の第2の人生に関わりますから、話をじっくり聞き、農業に向いていないと思うときは、はっきり伝えます。相談者が体験や研修を経て、実際に就農され

たときは嬉しいですね」と話す就業アドバイザーの吉田典夫さん。

「就農、就業どちらの場合も、まずは各種制度を利用して農業を体験することをお勧めします」。

かごしま遊楽館、大阪事務所、福岡事務所や、支庁・地域振興局の農業改良普及業務を担当する部署でも、就農相談に応じている。

左から岩倉さん、吉田さん。
「お気軽にご相談ください」



左から、河崎さんご夫妻、
白川さんご夫妻

ピーマンの植え付け方について
説明を受ける14期生のみなさん。

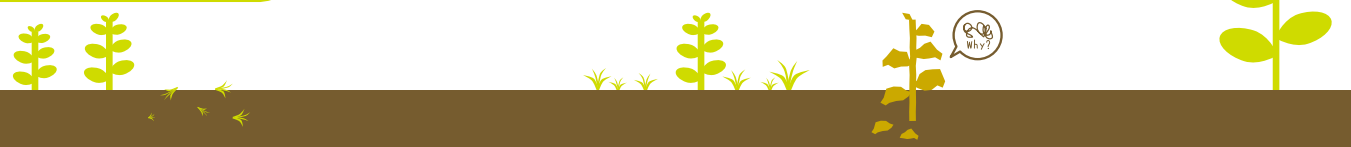


かごしま就農・就業相談会を開催します！

農業を始めたい方、農業法人に就職したい方、農業の研修をしたい方、農業に興味のある方、ぜひご来場ください。

- 日時 平成22年1月10日(日) 午前10時～午後4時
- 場所 県庁2階講堂
- 内容 個人面接による相談、市町村担当者による面談、農業開始資金の融資相談

社団法人鹿児島県農業・農村振興協会 ☎099-213-7223
ホームページ <http://www.ka-nosinkyo.net/syunou>



農家は一企業。 はっきりした目標を！

株式会社 日野洋蘭園

(有)ジャパン・アグリ・ビジネス(J・A・B)

薩摩郡さつま町に本社のある株式会社日野洋蘭園。東京事務所と県内に2箇所の農場を構え、切り葉用アイビー(西洋木ヅタ)の年間出荷量は650万本と全国シェア約7割を占める全国トップクラスの農業法人である。社員は13人、全員が非農家の出身で、入社して農業を始めた新規就業者だという。

「農業経営の仕組みは企業と同じ。農業で成果を出すには、広い視野とセンス、行動力、こうやりたいという強い思いが必要」と代表取締役会長の柴寄 喜好しばさき きよしさん。東京から独力で鹿児島に進出した経験を元に、就農を希望する若者に企業的農業経営の考え方を伝えたいと、学生を対象としたインターンシップや、入社を希望する社会人などを



対象に会社の実際の作業を体験する研修を実施している。

「ほぼ毎年、1人～2人は新規就業者を雇用しています。植物を育てるのは赤ちゃんを育てるのと同じ。実際に見て感じてやってみなければ、植物に今何がどれくらい必要かは分からない。しっかりとした姿勢と方向性があるのはじめて良い物が作れます。その人の感性、捉え方、判断力が大事」。

「はじめから一人で農業で生計を立てることは簡単ではない。施設設備の整った企業で農業に取り組み、経験を積むのも一つの方法だと思います」。

株式会社 日野洋蘭園 ☎0996-31-6006

ホームページ <http://www.hinoyouran.co.jp>

充実した研修で 就農をバックアップ

財団法人 志布志市農業公社

志布志市農業公社は、将来農業で自立を目指す農業後継者や新規就農希望者を受け入れ、地域の重点野菜である施設ピーマン、いちごの農家を育成する研修事業に力を入れている。

研修期間は2年間。研修生は市営住宅などに居住し、公社の研修農場で土作りから栽培・収穫・出荷・経営まで一から実践して学ぶ。1年間は生活支援として生活費の一部が支給されるが、2年目から生活費は支給されず、一般農家と同じく独立経営方式で、公社の農場を使用して農業で生計を立てる。就農時には、ハウス施設などの設置に補助金や資金の借入れを利用することができ、農地は農業委員会、農業公社からあっせんされる。



(財)志布志市農業公社 農場指導員
中吉 光則なかよし みつのりさん

「研修生たちは慣れ親しんだ地域を離れ、新しい環境で全力で頑張っている。不安を少しでも減らせるよう、農業以外のことでも何でも相談に乗ってあげたい。近隣農家も含め、こちらも全力でバックアップします」。

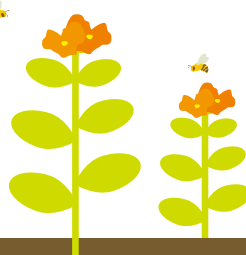
平成8年からピーマン農家育成の研修を行っている志布志農業公社で、これまでに研修を修了したピーマン農家は32戸、今では志布志市のピーマン農家の過半数を研修修了生が占める。現在は14期生となる1年生2世帯、2年生4世帯がピーマン農家を目指し研修中。

「ピーマンの苗が日に日に成長していく姿を見るのが嬉しい」と話すのは大阪から移住した白川 博信しろかわ ひろのぶさん(32歳)と妻の輝美てるみさん(32歳)。「農業はまだまだ分からないことだらけ。公社の指導員さんのほか、近所の先輩農家さんにも教えてもらっています。早く自分たちで立派なピーマンを育てたいですね」。

「こっちに来て、気持ちに余裕ができました」と話すかわさき あつひこかわさき あつひこ河崎 宏彦ひろひこさん(37歳)、由紀ゆきさん(36歳)夫妻。「農業は自分が努力した分だけ成果が出る」と大阪でのサラリーマン生活から農業の世界に飛び込んだ。研修を受ける前に公社の体験研修に2回参加し、移住を決めたという。

「研修修了生の先輩方の存在が頼もしいし、自分たちの励みになっています」。

財団法人 志布志市農業公社
☎099-475-2290



指宿市指導農業士会

指導農業士とは、地域でモデル的な農業経営を実践し、新規就農者や青年農業者の育成に対する熱意と指導力があり意欲的に活動しているとして知事から認定を受けた方。

指宿市指導農業士会は11人の指導農業士(野菜 4人、施設花き・観葉植物 4人、畜産 3人)で構成され、女性農業経営士や関係機関・団体と共に新規就農者に対する巡回訪問や、新規就農者の全体研修会「ニューファーマーの集い」、年4回開催の「オクラニューファーマー講座」などの活動を通して、新規就農者に農業の技術面や経営、農村での生活などに関するさまざまな助言を行い、就農後の定着を支援している。指宿地域の新規就農者は毎年20人前後。昨年度は21人の新規就農者が誕生した。

「巡回訪問では、新規就農者の家庭



新規就農者の畑でアドバイス。



「指宿では若い農業者たちが、子どもたちへ安心安全な野菜を食べさせようと食育に積極的に取り組んでいて、頼もしく感じています」と笑顔の澤山さん。

とほ場を訪問し、生育状況をみながら、指導・助言をしています。植え付けや、堆肥のやり方など、新規就農者から積極的に質問されますよ」と指宿市指導農業士会 会長の澤山 岩重さん。澤山さんはオクラを作って38年のベテランで、「オクラニューファーマー講座」の講師も務めている。

「農業は天候に左右されるなど厳しい一面もありますが、自分のがんばり次第で結果を残せるのが魅力。新規就農者へは、普段からきちんと土壌診断を行うことを指導しています」と澤山さん。

「自分が育てた野菜を食べた人から、おいしいと言ってもらえたときが、やっぱり嬉しいです。農業で利益を上げることだけではなく、作物をつくる喜びも若い人たちに伝えたいですね」。

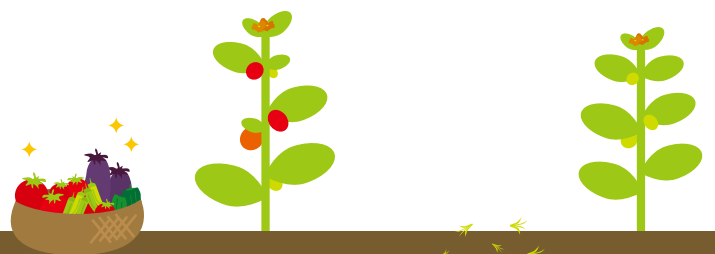
頼れる先輩農業者です!

～就農後の定着を支援する現地就農トレーナー制度～



写真右) 情報交換の貴重な場でもあるニューファーマーの集い。
写真左) オクラニューファーマー講座で栽培技術を助言。

It continues...





「新しく子牛用の牛舎を建てたい」と今後の目標を話す新地さん。



親牛への餌やり

「これから」を担う 新規就農者です!



「初めて自分で人工受精した牛から子牛が無事に生まれたときは、すごく感動して、嬉しかったです」と笑顔で話す新地 真実さん(27歳)。鹿屋市大浦町で和牛の繁殖農家として就農し、今年で6年目。現在、親牛約40頭、子牛25頭を飼養している。

両親が肥育農家で幼い頃から身近に牛がおり、特に子牛が好きで、繁殖農家だった祖父をよく手伝っていたという新地さん。進学した鹿屋農業高校では迷わず畜産科に進み、基本的な畜産(牛)の知識、技術を学んだ。高校時代、アルバイトで貯めたお金で子牛を買ったほど、牛が好きだと語る。

高校卒業後、畜産講習所で2年間、より専門的な知識、技術を学びながら家畜人工授精師の資格を取得。卒業と同時に祖父から10頭の親牛を引き継ぎ、繁殖農家として就農した。2年後には就農支援資金を活用し、新しく牛舎を建て、牛の数を増やした。「今もまだわからないことばかり。日々仕事をしながら、新しい知識、技術を身につけている状態です」と新地さん。「地区の研修会に参加し、先輩農家さんの技術を少しずつ取り入れて、自分に合ったやり方を試行錯誤しています」。

朝7時から子牛の世話が始まり、遅いときは夜9時〜10時まで牛舎に残っていることもあるという。作

業はすべて一人で行っており、休みはないが、「自分にはこの仕事があっています。もちろん大変なこともあります。自分の好きなことができ、充実しています」と語る。

「市場に出すまでの9カ月間、子牛が無事に育つことが嬉しいです。発情、お産の時期、子牛の病気などを見逃さないよう、牛をよく観察することを心掛けています」。

所属する鹿屋農業青年クラブでは、経営改善に向け、飼料配合割合の設計や給与方法について研究しているとのこと。また、地域の畜産業を盛り上げようと、肝属地域の同年代の女性畜産後継者7人で構成されるグループ「きもつきイラブ牛」の副会長を務め、定期的に集まって情報交換や研修を行っている。「牛の話ばかりで盛り上がりがあります。いろいろと相談できる、強い味方です」。



最近生まれたばかりの子牛。新地さんは市場に出す前に1頭1頭写真に納め大切にしているそう。